

ジンバブエと日本をくらべてみよう

田中利樹 横浜市立並木第一小学校

実践教科：総合的な学習の時間・3時間

対象学年：3・4学年 対象人数：138名

(全校児童264名、保護者、教職員30名を対象に各40分)

(1) 実践の目的

低学年：ジンバブエの学校・生活・自然などの写真を見て、日本のそれらとのちがいに気付き「外国」というものの存在を知る。

中学年：ジンバブエの学校・生活・自然などの写真を見たり、現地の子どもたちの生活の様子を聞いたりして、自分の生活と比べて考え、日本は物質的に豊かで恵まれていることが分かる。

高学年：ジンバブエの学校・生活・自然などの写真を見たり、現地の生活の様子を聞いたりして、ジンバブエと日本のそれぞれのよさを考えることができる。

保護者：ジンバブエの学校・生活・自然などの写真を見たり、現地の生活の様子を聞いたりして、家庭での子どもとのかかわり方や、自分たちの生活を見直すきっかけとする。

教職員：ジンバブエにおける学校教育や日常生活の状況を知り、国際理解教育・開発教育の在り方や必要性について考える。

(2) 授業の構成案

<低・高学年 保護者>

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
テーマ：ジンバブエに行ってみました ねらい：5 (1) 実践の目的を参照	(1) ジンバブエの場所を知る (2) ジンバブエの学校・生活・自然などの写真をプレゼン形式で30枚程度見る (3) 写真を見ながら気付いたことを自由に発言する (4) ワークシートに記入する(低はなし)	(1) 世界地図 (2) ジンバブエで収集した写真 (4) ワークシート

<中学年>

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
【1限目】 テーマ：ジンバブエに行ってみました ねらい：ジンバブエと日本の違いに気付く	(1) アフリカと聞いてイメージすることをワークシートに記入する (2) 世界地図でジンバブエの場所を知る (3) ジンバブエの学校・生活・自然など	(1) ワークシート (2) 世界地図

	<p>の写真を、プレゼン形式で10枚程度見る</p> <p>(4) 写真を見ながら気付いたことを自由に発言する</p> <p>(5) 4人グループで1枚の写真について気付いたことを話し合う</p> <p>(6) ワークシートに感じたことを記入する</p>	<p>(3) ジンバブエで収集した写真</p> <p>(6) ワークシート</p>
<p>【2限目】</p> <p>テーマ：生活のちがいを考えよう</p> <p>ねらい：子ども同士の生活の違いについて考える</p>	<p>(1) 前時の写真についての説明を聞く</p> <p>(2) 通学に歩いて2時間かかる子(ジェファー君)がいることや子どもが水汲みに行くことを知る</p> <p>(3) 自分の24時間の生活と、想像したジェファー君の24時間の生活を、それぞれ表にあらわす</p> <p>(4) ワークシートに感じたことを記入する</p>	<p>(1) ジンバブエで収集した写真</p> <p>(3) ワークシート</p> <p>(4) ワークシート</p>
<p>【3限目】</p> <p>テーマ：日本のよさを考えながら写真を見よう</p> <p>ねらい：日本は物質的に豊かで恵まれていることが分かる</p>	<p>(1) 1限目に見なかった他の20枚程度の写真を見る</p> <p>(2) 写真を見ながら気付いたことを自由に発言する</p> <p>(3) ワークシートに日本のよさについて記入する</p> <p>(4) ジンバブエのよさを考える</p>	<p>(1) ジンバブエで収集した写真</p> <p>(3) ワークシート</p>

<教職員>

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<p>テーマ：ジンバブエに行ってきました</p> <p>ねらい：5 (1) 実践の目的を参照</p>	<p>(1) アフリカと聞いてイメージすることをワークシートに記入する</p> <p>(2) 世界地図でジンバブエの場所を知る</p> <p>(3) ジンバブエの学校・生活・自然などの写真をプレゼン形式で見る</p> <p>(4) 写真を見ながら気付いたことを自由に発言する</p> <p>(5) ワークシートに記入する</p>	<p>(1) 世界地図</p> <p>(2) ジンバブエで収集した写真</p> <p>(5) ワークシート</p>

<教材の選定>

使用した教材は写真を中心にした。話で聞くだけになるよりも、具体的な子どもの姿、生活風景、自然が目に入ってくることで、イメージがもちやすくなったようだ。

低・高学年・保護者・教職員には、限られた時間の中ではあったが、できるだけたくさんの写真を見てもらいたかったため、あえて選定をせずに写真を提示した。

中学年では、まず自分の学級でとにかくたくさんの写真を提示し、子どもたちが興味を示す写真、教師にとって意外な反応を見せる写真をチェックした。そして、他のクラスで実践する3時間の展開とねらいを考慮し、最初に提示する10枚程度の写真を選定した。住居・まち・教材教具・学校・子どもの生活と日本との違いが感じ取りやすい写真になった。

<学習の形態>

全般的に一斉授業を行った。パワーポイントとプロジェクターを使用し、全員が写真を視覚的に捉えられるようにした。

中学年の学習では、部分的にグループ活動を取り入れ、意見の交換ができるようにした。3時間通してのワークシートを1枚用意し、ポートフォリオとして活用できるようにした。また、「特別授業」として、担任していない学級でも授業をさせてもらった。自分の学級が専科の授業である音楽・図工の時間を利用した。

<児童の反応>

事前に「アフリカに行ってくるよ。」と話しておいたこともあり、「先生、ジンバブエはどうだった?」「給食ってあるの?」「写真見せてほしいな。」と興味・関心をもっている様子うかがえた。実際に写真を見ているときも興味津々といった様子だった。一枚一枚の写真が映し出されるたびに気が付いたことや感じたこと、知っていることなどをつぶやいたり、近くの児童同士で話したりしていた。

日常の学習ではこういった一方的な講義調の学習展開になると、おしゃべりが多くなってしまったり、集中力がなくなることが多い。しかし、低学年の児童でも40分間しっかりと写真を見たり、話を聞いたりしていた。中学年の児童は週1回のジンバブエの学習を楽しみにしている様子だった。高学年の児童からは、「もっとくわしく知りたいな。」「外国に行ってみたくなりました。」などと感想を聞くことができた。

1月には例年通り児童運営委員会が主体となってユニセフ募金週間が設定された。今年度は子どもたちから「一人100円の募金を呼びかけよう。」という意見が出された。募金は、1円でも多く集まる方がいいと考えそうなものだが、「ちょっと駄菓子を買うのを、ジュースを飲むのを我慢して募金できるのは100円くらいじゃないか。」と、金額の大小よりも、少なくとも気持ちを込めた募金活動を展開した。

日本のものの豊かさ、ジンバブエの経済的な状況を感じ取ったからこそ進められた活動だったと思う。

<所感・反省点>

担当学年が3年ということと、総合的な学習の時間で取り扱う内容が他に決まっていたことで、時間を多く取り、深く掘り下げた学習活動を展開することは考えることができなかった。

中学年として身に付けてほしい国際感覚というものを考えたとき、3時間の授業でどこまでをねらうべきなのか非常に悩んだところであったが、本校の児童の実態と照らし合わせて「日本は経済的に、物質的に恵まれている」という事実を知ることをねらいとして設定した。

小学校教諭の場合、自分の担当学年によって、国際理解教育のねらいやそのための適切な教材が毎年変化するのが一般的だと思われる。とくに高学年では長い時間をかけてじっくりと国際理解の学習を進めていきやすい。しかし今回の取組を通して、一つの教材でも発達段階に応じてねらいを柔軟に設定し、学習を展開することが可能性を秘めているということが感じてとれた。

本校の教職員の協力を得、教職員・低学年・高学年・保護者に向けた報告会を開くことができた。また、学校便りの記事としてジンバブエのことを書かせてもらった。学習発表会では1ブースをジンバブエの写真展示に充てさせてもらうこともできた。発達段階に応じた系統的な学習を展開するために、本校の教職員に尽力してもらったことに心から感謝している。

今回の実践にとらわれず、他の研修参加者の実践やJICAの職員の皆様の御助言を参考にして、来年度以降もよりよい開発教育・国際理解教育を展開していくことを考えていきたい。